

講義コード		科目区分	専門教育科目
(フリガナ)	セカイ・アジア・ニホン	(フリガナ)	ユン チャンギ
授業科目名	世界・アジア・日本	担当教員名	尹 燦奇
英文授業科目名	The World・Asia・Japan		
基準年次(開講期)	1年(後期)	履修形態	選択
曜日/時限/講義室	月4限/浅草・池袋, 金4限/浅草, 火2限/池袋		
授業の方法	講義	授業の方法 (詳細情報)	講義
単位	2	週時間	2
授業のキーワード	グローバリゼーション、近代、地球温暖化、移民、グローバル文化		
授業概要・目的	グローバリゼーションという現代社会を表象する概念について知り、それが我々の生活をどのように変容しているかを理解する。また、グローバリゼーションを単一の領域に限定されたものではなく、政治、経済、文化、エコロジー、イデオロギーにわたる多次元の社会的過程としてグローバリゼーションをとらえた上で、グローバリゼーションにまつわる多様な議論について知ることを目的とする。		
到達度評価の評価項目	グローバリゼーションをめぐる多様な議論について説明することができる。 グローバル経済を形成する諸要因を列挙することができる。 国民国家の歴史を踏まえて、国民国家に代わる新たな政治システムの例をあげることができる。 言語や生活様式のグローバル化に影響するマスメディアの役割について説明することができる。 地球規模の環境問題の原因とグローバルなレベルでの対策について説明することができる。 グローバリゼーションに対する様々なイデオロギックな立場を分類することができる。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 授業の概要、進め方		
第2回	グローバリゼーションとは何か グローバリゼーションの理解、多次元にわたるグローバリゼーション		
第3回	グローバリゼーションの歴史 人類の歴史的発展過程とグローバリゼーション		
第4回	グローバリゼーションの経済的次元① 世界経済システムの成立、新自由主義の台頭		
第5回	グローバリゼーションの経済的次元② 多国籍企業、自由貿易、国際経済機関との関連		
第6回	グローバリゼーションの政治的次元 近代国民国家の成立、グローバリゼーションによって変化を迫られる国民国家		
第7回	グローバリゼーションの文化的次元① グローバル文化の成立、多国籍メディア企業の役割、言語のグローバル化		
第8回	グローバリゼーションの文化的次元② マクドナルド化する社会		
第9回	グローバリゼーションと私生活 セックス、結婚、家族の質的变化		
第10回	グローバリゼーションのエコロジー的次元① 地球規模の環境破壊、環境問題に取り組むグローバルな協調体制		
第11回	グローバリゼーションのエコロジー的次元② 地球温暖化問題と『不都合な真実』前編		
第12回	グローバリゼーションのエコロジー的次元③ 地球温暖化問題と『不都合な真実』後編		
第13回	移民 外国人労働者、留学生、『ヒト』の移動をもたらす現代社会の構造		
第14回	グローバリゼーションに対する多様な立場 市場はグローバリズム、正義派グローバリズム、反グローバリズム		
第15回	まとめ 第1回から第14回までの授業の振り返り		
教科書・参考書等	各回、資料を配布する。以下、予習・復習にあたる参考図書を紹介する。 ・M.スティーガー(2010) 『新版 グローバリゼーション』、櫻井公人ほか訳、岩波書店 ・A.ギデンズ(2001) 『暴走する世界』、佐和隆光訳、ダイヤモンド社 ・伊豫谷登士翁(2002) 『グローバリゼーションとは何か』、平凡社		
授業で使用する機器等	パワーポイント、映像資料		
予習・復習へのアドバイス	学習目標の到達度をチェックするために第12回にレポート課題を出す。参考図書・配布資料を読んで予習・復習をしておくこと。		
履修上の注意・受講条件等			
成績評価の基準等	期末テスト70%(選択式問題と記述式問題で評価する。) レポート20%(講義内容に関するレポート課題を出す。) 授業に取り組む姿勢10%(授業への積極的参加は評価する。)		
メッセージ	私語は禁止。授業と関係のない情報機器の使用禁止。		
オフィスアワー			
その他			